

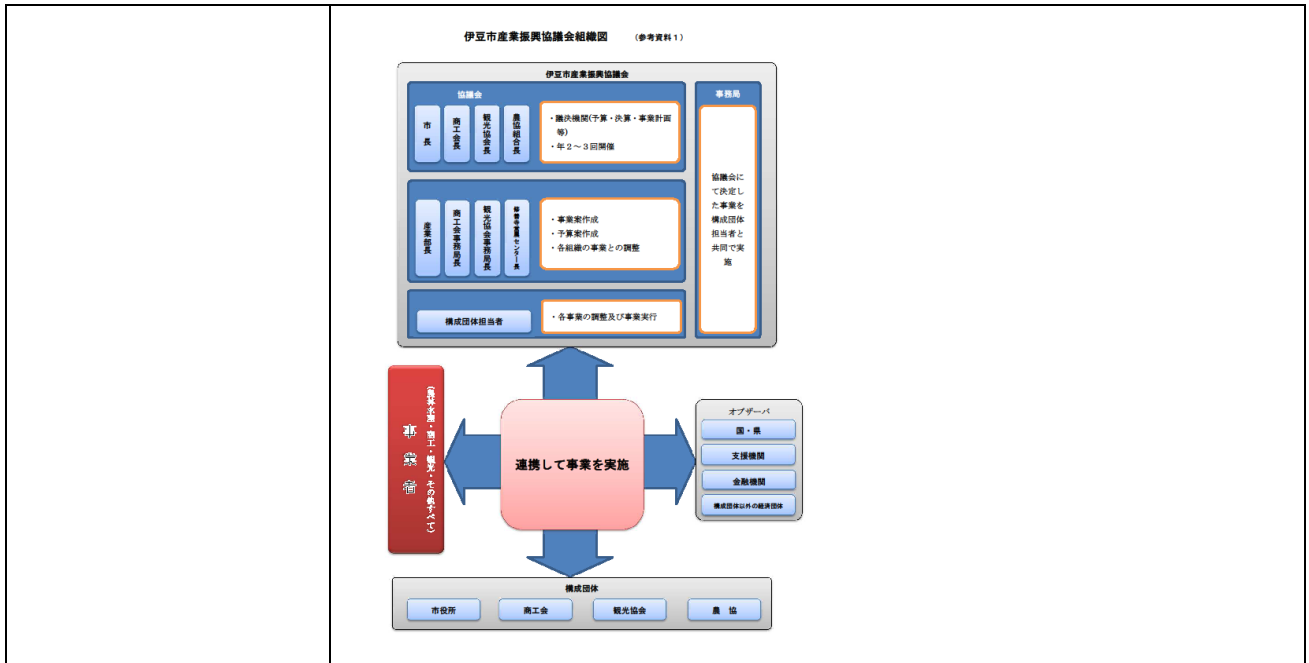
日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

申請区分	地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	(一社) 伊豆市産業振興協議会	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	伊豆市内	
所在地	静岡県伊豆市修善寺 838-1	
設立時期	平成 29 年 4 月 3 日	
職員数	6 人	
代表者(トップ人材: 法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) ※必ず記入すること	(氏名) 菊地 豊 (出身組織名) 伊豆市役所	伊豆市長であり、伊豆市産業振興協議会が任意団体の時から会長であり、平成 29 年 4 月 3 日の法人化後も会長に就任している。
各種データの分析・収集等(マーケティング)の責任者	(氏名) 山下 芳之「専従」 (出身組織名) 伊豆市役所	各種データの収集・分析、観光戦略、事業の提案、観光戦略の修正・改善、計画の見直しを行い、協議会の総会、理事会等へ報告する。
プロモーションの責任者	(氏名) 飯田 克彦 (出身組織名) 伊豆市役所	平成 30 年 4 月 1 日より市役所の人事異動により着任する。市役所で長く観光行政に携わり JTB への派遣経験もあり、誘客プロモーションの立案、実施、検証を行う。
旅行商品の造成・販売の責任者(専門人材)	(氏名) 飯塚 拓也 (出身組織名) 伊豆市役所	伊豆市産業振興協議会の立ち上げ時から着任し、旅行商品の造成(事業)と販売促進活動を行う。参加者へアンケート調査を行い、調査結果から商品(事業)内容の検証と見直しを行う。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	伊豆市 観光商工課(産業振興) 農林水産課(農林水産業振興) 観光商工課(観光振興)	
連携する事業者名及び役割	(一社) 伊豆市観光協会(観光事業者との連絡調整) 伊豆市商工会(市内事業者との連絡調整) J A 伊豆の国(市内農業者との連絡調整)	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	(一社) 伊豆市産業振興協議会内には、関係団体の会長及び副会長が参加する総会及び理事会の年数回開催、その下に構成団体の事務局長で組織する運営委員会を月 1 回程度開催し合意形成を図る。また、伊豆市内の宿泊施設、交通事業者、旅館組合、商工会等の職員で組織するマーケティング委員会を組織し、旅行商品の造成とアンケート調査による事業展開の検討を行う。正会員及び賛助会員で構成する全体会議を年 3 回程度開催し、当協議会の事業について報告を行い情報提供と事業ごとの協力を依頼する。	
地域住民に対する観光地域づくりに関する意	DMO の研修会及びマーケティング委員会を組織し、観光アンケート調査、分析を行い、伊豆市内の宿泊施設、観光施設、交通事業者、市民等への発	

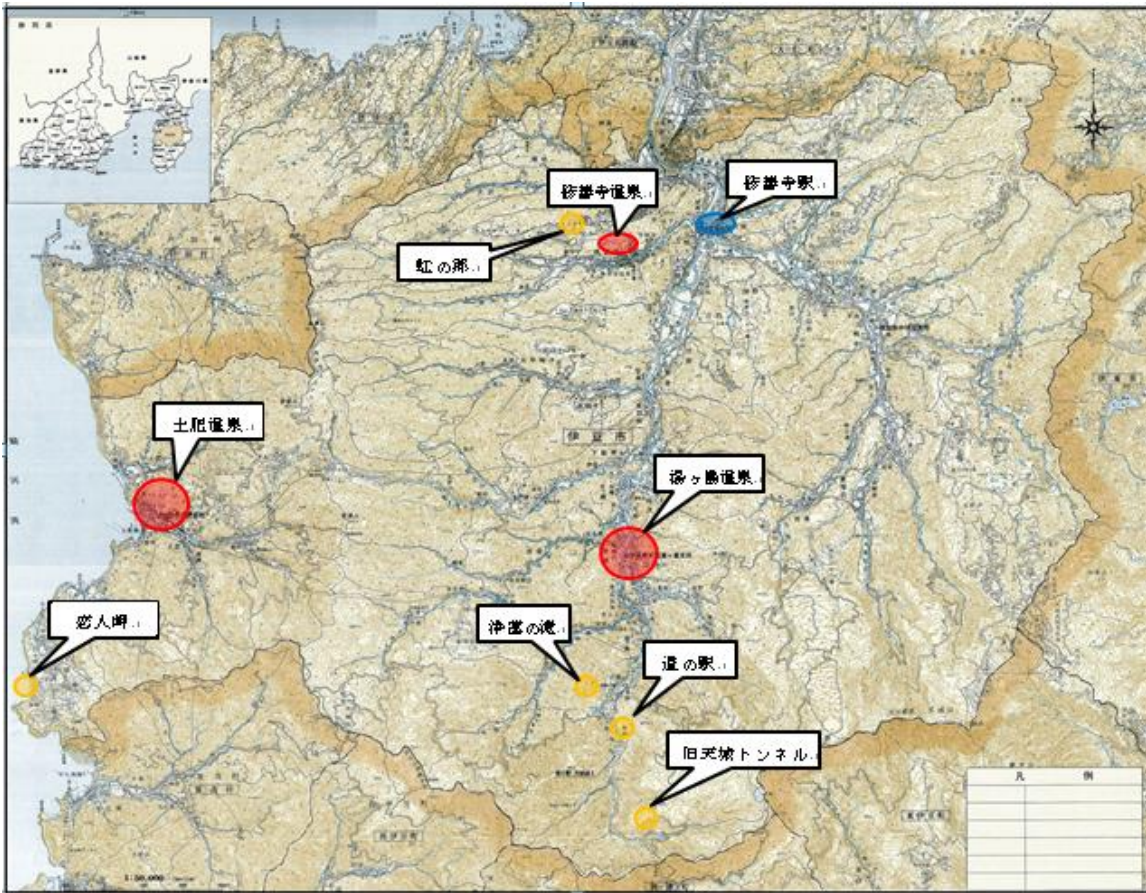
(別添) 様式 1

<p>識啓発・参画促進の取組</p>	<p>表会を開催した。また、アンケート調査結果に基づき旅行商品の造成を行い交通事業者に委託し販売。その結果から今後の事業展開を検討していく。今後はユニバーサルツーリズム推進の取組を行う。</p>																																																								
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・首都圏での情報発信及び誘客事業。 ・伊豆市の特産品「わさび」を活用した誘客事業 ・民宿のインバウンド受入推進事業 ・マーケティング委員会事業 ・大学と連携した観光事業 ・伊豆市ブランド化推進事業 <p>(定量的な評価)</p> <table border="1" data-bbox="512 602 1437 1104"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>単位</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観光レクリエーション客数</td> <td>千人</td> <td>2,399</td> <td>2,183</td> <td>2,622</td> <td>2,937</td> <td>2,664</td> </tr> <tr> <td>宿泊客数</td> <td>千人</td> <td>835</td> <td>797</td> <td>801</td> <td>812</td> <td>831</td> </tr> <tr> <td>観光交流客数</td> <td>千人</td> <td>3,234</td> <td>2,980</td> <td>3,423</td> <td>3,749</td> <td>3,495</td> </tr> <tr> <td>外国人観光レクリエーション客数</td> <td>人</td> <td>11,597</td> <td>18,334</td> <td>38,065</td> <td>45,875</td> <td>61,036</td> </tr> <tr> <td>外国人宿泊客数</td> <td>人</td> <td>5,592</td> <td>8,558</td> <td>21,304</td> <td>51,503</td> <td>56,293</td> </tr> <tr> <td>外国人観光交流客数</td> <td>人</td> <td>17,189</td> <td>26,892</td> <td>59,369</td> <td>97,378</td> <td>117,329</td> </tr> <tr> <td>1人当たりの観光消費額</td> <td>円</td> <td>15,802</td> <td></td> <td></td> <td>11,612</td> <td>15,444</td> </tr> </tbody> </table>	項目	単位	H24	H25	H26	H27	H28	観光レクリエーション客数	千人	2,399	2,183	2,622	2,937	2,664	宿泊客数	千人	835	797	801	812	831	観光交流客数	千人	3,234	2,980	3,423	3,749	3,495	外国人観光レクリエーション客数	人	11,597	18,334	38,065	45,875	61,036	外国人宿泊客数	人	5,592	8,558	21,304	51,503	56,293	外国人観光交流客数	人	17,189	26,892	59,369	97,378	117,329	1人当たりの観光消費額	円	15,802			11,612	15,444
項目	単位	H24	H25	H26	H27	H28																																																			
観光レクリエーション客数	千人	2,399	2,183	2,622	2,937	2,664																																																			
宿泊客数	千人	835	797	801	812	831																																																			
観光交流客数	千人	3,234	2,980	3,423	3,749	3,495																																																			
外国人観光レクリエーション客数	人	11,597	18,334	38,065	45,875	61,036																																																			
外国人宿泊客数	人	5,592	8,558	21,304	51,503	56,293																																																			
外国人観光交流客数	人	17,189	26,892	59,369	97,378	117,329																																																			
1人当たりの観光消費額	円	15,802			11,612	15,444																																																			
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要)</p> <p>(一社)伊豆市産業振興協議会事業は、伊豆市役所、伊豆市観光協会、伊豆市商工会、JA伊豆の国が構成団体となった団体である。(一社)伊豆市産業振興協議会内に、DMO責任者、データ分析担当者、プロモーション担当者、旅行商品の造成・販売の責任者を置き、事務局長、市役所及び商工会からの出向者6人体制により戦略的な誘客活動を行う。また、事業実施については、構成団体及び賛助会員15社と協力していく。</p> <p>【実施体制】</p>																																																								



2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

平成 27 年 1 月 22 日より、伊豆市の商工会、観光協会、JA、伊豆市役所産業部と伊豆市内の事業者

(別添) 様式 1

の産業力を強化するための団体、伊豆市産業振興協議会設立に向け協議を続けてきた。平成 29 年 4 月 3 日から一般社団法人となり、戦略的な誘客活動を行ってきた。今後、伊豆市の主産業である観光業を主体として産業振興を行い、日本版 DMO の実施主体とするため、伊豆市内を区域設定とするのが適切である。

【観光客の実態等】

項目	単位	H24	H25	H26	H27	H28
観光レクリエーション客数	千人	2,399	2,183	2,622	2,937	2,664
宿泊客数	千人	835	797	801	812	831
観光交流客数	千人	3,234	2,980	3,423	3,749	3,495
外国人観光レクリエーション客数	人	11,597	18,334	38,065	45,875	61,036
外国人宿泊客数	人	5,592	8,558	21,304	51,503	56,293
外国人観光交流客数	人	17,189	26,892	59,369	97,378	117,329
1人当たりの観光消費額	円	15,802			11,612	15,444

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

日帰り温泉 12 施設、ミュージアム 3 カ所 体験工房 6 カ所、ゴルフ場 10 カ所、スポーツ施設 8 施設、登山・ハイキングコース 6 カ所、文化・歴史施設 22 施設、自然学習施設 16 施設、アミューズメント 7 カ所、飲食店 95 店舗、お土産店 69 店舗

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

修善寺地区 22 施設、中伊豆地区 10 施設、天城地区 34 施設、土肥地区 68 施設

【利便性：区域までの交通、域内交通】

電車 東京駅⇒三島駅（新幹線）60 分、三島駅⇒修善寺駅 35 分

自動車 東名高速道路 東京 I C⇒沼津 I C又は長泉沼津 I C 60 分、伊豆縦貫道 沼津 I C又は長泉東名 I C⇒修善寺 I C 30 分

【外国人観光客への対応】

伊豆市観光案内所 J N T O 認定外国人観光案内所 カテゴリー 2

多言語観光案内看板設置、修善寺温泉内 W i - F i 基地局 17 カ所設置

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
観光交流客数	誘客施策の基礎資料とするため	静岡県観光交流の動向（静岡県）
観光レクリエーション客数	誘客施策の基礎資料とするため	静岡県観光交流の動向（静岡県）
宿泊客数	誘客施策の基礎資料とするため	静岡県観光交流の動向（静岡県）
外国人観光交流客数	誘客施策の基礎資料とするため	伊豆市外国人観光客受入状況調査（伊豆市）
外国人交流客数	誘客施策の基礎資料とするため	伊豆市外国人観光客受入状況調査（伊豆市）
外国人宿泊客数	誘客施策の基礎資料とするため	伊豆市外国人観光客受入状況調査（伊豆市）
流動実態	発地観光客を把握し、ターゲットの設定、次年度の事業計画作成の基礎資料とするため	静岡県における観光の流動実態と満足度調査（静岡県）

(別添) 様式 1

満足度	伊豆市に訪れる観光に関する満足度を把握し、強み・弱みを把握し、次年度の事業計画作成の基礎資料とするため	静岡県における観光の流動実態と満足度調査（静岡県）
旅行消費額	伊豆市に訪れる観光客の旅行消費額を把握し、次年度の事業計画作成の基礎とする	静岡県における観光の流動実態と満足度調査（静岡県）
リピーター率	伊豆市に訪れる観光客のリピーター率を把握し、次年度の事業計画作成の基礎とする	静岡県における観光の流動実態と満足度調査（静岡県）
WEB サイトのアクセス状況	伊豆市に対する関心度や事業効果等を把握するため	グーグル・アナリティクスを活用して実施

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths) 強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光資源（海、山、川／修善寺／天城峠／紅葉等） ・観光施設 ・特産品（わさび、椎茸等） ・首都圏からの近さ ・温暖な気候 ・スポーツ施設 ・伊豆というネームバリュー ・歴史、文学（1,200年の歴史、文人墨客が多く滞在） ・魅力的な宿泊施設 ・温泉 ・コンパクトにまとまった温泉街 ・風景（富士山、夕日） 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣市町との差別化 ・伊豆市の認知（伊豆、伊豆半島としての認知） ・合併前の旧4町エリアの連携 ・観光施設同士の連携 ・人手不足 ・交通インフラ ・観光資源の活用 ・観光事業資金不足 ・外国人観光客受入体制 ・後継者不足による店舗減少、空き店舗増加 ・土産物 ・就農人口の減、高齢化 ・人材不足 ・新規事業者不足
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京オリンピック・パラリンピック開催 ・静岡県水わさびの伝統栽培の世界農業遺産登録 ・ユネスコによる世界ジオパーク認定 ・スポーツ合宿 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の観光地との競争激化 ・旅行の目的の多様化 ・自然災害 ・人口減少 ・公共交通機関のアクセスの悪さ ・交通渋滞

(別添) 様式 1

<ul style="list-style-type: none">・外国人観光客（中国、台湾等）・リピーター率の高さ・新東名等新規道路開通・富士山、韮山反射炉の世界遺産	
--	--

(2) ターゲット

<p>○第1ターゲット層 首都圏在住の熟年層の夫婦のリピーター</p>
<p>○選定の理由 平成28年度に伊豆市が行った観光アンケート調査結果と静岡県が実施した調査から、当該ターゲット層の来訪が著しく多くリピーターが多いため、今後とも市場としても今後も拡大傾向にあるため第1ターゲット層とした。</p> <p>○取組方針 首都圏で行われる商談会での旅行会社へのPRを行うとともに、今まで行っていない首都圏在住の熟年層へアプローチできるプロモーション活動と旅行商品造成と販売を行う。 観光の流動実態と満足度調査による再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。</p>
<p>○第2ターゲット層 台湾、中国、香港、韓国などのアジア、シンガポール、タイなどの東南アジア諸国及び欧米・豪の中間富裕層以上の少人数旅行者</p>
<p>○選定の理由 台湾、中国、香港、韓国からの旅行者が伊豆市の外国人観光交流客数の86%をしめており、特に台湾の方はリピーターが多いためターゲットに設定した。また、伊豆市内は安価で大人数を受け入れ可能な宿泊施設が少ないため、経済成長著しい東南アジア諸国のFITが市場としても今後拡大傾向にあるためターゲットに設定した。 欧米・豪は日本文化への興味が強く、長期滞在型が多いため富裕層をターゲットとする。</p> <p>○取組方針 アジア・東南アジアは伊豆市インバウンド推進プロジェクトチームとともに、現地の旅行会社へのプロモーションを行う。 欧米・豪については、静岡ツーリズムビューロとともに、ファムトリップを行う。</p>
<p>○第3ターゲット層 20歳から30歳代の旅行意欲の高い女性</p>
<p>○選定の理由、 旅行意欲の高い層であるが、伊豆市への来訪割合が他の年代と比べて低い一方、リピーターとなれば長い年月及びその後家族、母娘、女子旅での来訪が見込まれるため。</p> <p>○取組方針 若い女性に訴求できるWebサイトを使い、若い女性が魅力を感じられる伊豆市をイメージできるプロモーションを行っていく。</p>

(3) コンセプト

(別添) 様式 1

①コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆市に来ると心も体もあつたまる。 ・遊んで楽しい、食べておいしい、泊まってうれしい、自然、歴史、文化が薫る伊豆市へようこそ
②コンセプトの考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆市の強みは、「温泉」「自然・景観」、「食」、「宿泊施設」である。その反面、大きなテーマパークなどはない。そこで、伊豆市の強みと人のあつたかさを全面に押し出したプロモーションを当協議会を中心に行う。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催までに外国人観光客受入に必要な体制や案内方法を構築し、オリ・パラ終了後も継続して伊豆市に来てもらうための事業を実施する。 ・ユニバーサルツーリズムを推進し、障がいを持った方、外国人だれもが伊豆市を楽しんでもらうための仕組み・お金のからないバリアフリーを推進していく。 ・各種データをもとにマーケティングを行い観光戦略、事業立案を立て、それに沿ったマネジメントをし、誘客・観光消費額の向上を目指す事業を行っていく。毎年事業効果を検証しPDCA サイクルを回していく。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	<p>当協議会の構成員である伊豆市役所、伊豆市観光協会、伊豆市商工会、伊豆の国農業協同組合と協議会事務局の会議「運営委員会」を月1回程度開催し、情報共有を図っている。</p> <p>正会員及び15団体の賛助会員で構成する「全体会議」を年3回程度開催し、広く情報共有を図っている。</p> <p>交通事業者、宿泊施設、旅館組合、観光協会等で組織するマーケティング委員会を事業内容の検討から実施、検証と事業内容の見直しのためその都度開催している。</p>
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	<p>当協議会に実施する事業の維持・向上・評価については、事業ごとに行うアンケート調査を基に、事業の満足度等を把握し、事業の品質維持・向上を図るとともに、会員全体で情報共有をし、運営委員会で事業内容の評価、見直しを行い、総会、理事会、全体会議等で報告し、次年度事業計画を立て実施していく。</p> <p>伊豆市全体のサービスについては、静岡県が実施する「静岡県における観光の流動実態と満足度調査」の結果を基に、サービスの維持・向上・評価を当協議会が分析し、当協議会の会員である観光協会、旅館組合、観光関係事業者等と共有し、個々の事業者でできること、伊豆市全体として行うことを決定し、伊豆市全体のサービス維持・向上を図る。</p>

(別添) 様式 1

<p>一元的な情報発信・プロモーション</p>	<p>伊豆市の主要マーケットである首都圏向けの情報発信を首都圏の主要駅でのプロモーションを当協議会が一元的な窓口として実施している。</p> <p>また、明確なターゲット層（首都圏在住の20～30代の女性）への情報発信を当協議会が一元的な窓口としてデジタルメディアを使ってプロモーションを実施している。</p> <p>誘客プロモーションとして当協議会が窓口となり、旅行会社に伊豆市に宿泊するツアーを造成してもらい、当協議会と旅行会社が一緒になりその旅行商品のプロモーション・営業活動を実施している。</p>
-------------------------	---

6. KPI (実績・目標)

(1) 必須KPI

指標項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
●旅行消費額	円	11,612 ()	15,444 ()	17,994 ()	18,029 ()	18,065 ()	18,101 ()
●延べ宿泊者数	千人	811 (51)	831 (56)	828 (29)	844 (87)	860 (104)	877 (121)
●来訪者満足度	%	97.9 ()	99.2 ()	97.8 ()	98.0 ()	98.0 ()	98.0 ()
●リピーター率	%	96.2 ()	95.8 ()	97.8 ()	98.0 ()	98.0 ()	98.0 ()

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

<p>【検討の経緯】 KPIの設定にあたっては、平成28年9月13日に策定した伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）において、平成32年度の成果目標が項目ごとに具体的な数値として挙げられている。この成果目標に沿ったKPIを設定する。</p> <p>【設定にあたっての考え方】</p> <p>●旅行消費額 旅行消費額は、総合戦略において、観光客一人あたりの観光消費額を平成24年度を基準値として、平成32年度成果目標として16,800円と設定されているが、平成29年度に目標達成しているため、平成29年度から0.2%の増加を目標とした。</p> <p>●延べ宿泊者数 総合戦略には、具体的な目標延べ宿泊数の設定はないが、公益社団法人静岡県観光協会の数値を参考に、年2%の伸びを目指す。また、外国人宿泊者数については、総合戦略に平成32年度成果目標として121,304人と設定されている。この伸び率を乗じて各年度の目標値を設定した。</p> <p>●来訪者満足度 来訪者満足度は、すでに98%前後と非常に高い実績を持っている。今後は、この満足度を維持していくことを目指す。</p> <p>●リピーター率 リピーター率は、すでに98%前後と非常に高い実績を持っている。今後は、このリピーター率を維持していくことを目指す。</p>

(2) その他の目標

指標項目	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
●年間観光交流客数	千人	3,748 (97)	3,594 (117)	3,413 (80)	3,775 ()	4,237 ()	4,500 ()

※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

KPI の設定にあたっては、平成 28 年 9 月 13 日に策定した伊豆市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）において、平成 31 年度の成果目標が項目ごとに具体的な数値として挙げられている。この成果目標に沿った KPI を設定する。

【設定にあたっての考え方】

●年間観光交流客数

年間交流客数は、総合戦略において、平成 24 年度の観光交流客数を基準値として、平成 32 年度成果目標として 450 万人と設定されている。この伸び率を乗じて各年度の目標額を設定。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳
29年度	38,315,268 円	【会費】 2,700,000 円 【事業受託金】 20,941,230 円 【市・観光協会・県の補助金】 14,174,000 円 【事業負担金】 500,000 円 【その他】 38 円
30年度	44,853,059 円	【会費】 2,750,000 円 【事業受託金】 25,630,000 円 【市・県の補助金】 11,914,000 円 【事業負担金】 500,000 円 【その他】 50 円 【繰越収支差額】 4,059,009 円
31年度	44,794,000 円	【会費】 2,750,000 円 【事業受託金】 25,630,000 円 【市・県の補助金】 11,914,000 円 【事業負担金】 500,000 円 【その他】 50 円 【繰越収支差額】 3,999,950 円
32年度	44,794,000 円	【会費】 2,750,000 円 【事業受託金】 25,630,000 円 【市・県の補助金】 11,914,000 円 【事業負担金】 500,000 円 【その他】 50 円 【繰越収支差額】 3,999,950 円
33年度	44,794,000 円	【会費】 2,750,000 円 【事業受託金】 25,630,000 円 【市・県の補助金】 11,914,000 円 【事業負担金】 500,000 円

(別添) 様式 1

		【その他】 50 円 【繰越収支差額】 3,999,950 円
--	--	------------------------------------

(2) 支出

年度	総支出	内訳
29 年度	38,315,268 円	【事業費】 22,273,641 円 【事務費】 11,982,618 円 【繰越収支差額】 4,059,009 円
30 年度	44,853,059 円	【事業費】 26,495,000 円 【事務費】 15,149,000 円 【繰越収支差額】 3,209,059 円
31 年度	44,794,000 円	【事業費】 26,495,000 円 【事務費】 15,149,000 円 【繰越収支差額】 3,150,000 円
32 年度	44,794,000 円	【事業費】 26,495,000 円 【事務費】 15,149,000 円 【繰越収支差額】 3,150,000 円
33 年度	44,794,000 円	【事業費】 26,495,000 円 【事務費】 15,149,000 円 【繰越収支差額】 3,150,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・ 賛助会員の拡大を図り会費収入の増加
- ・ 伊豆市及びその他からの受託事業の拡大
- ・ 伊豆市ブランド品（アマギフト）の販売促進による手数料収入の拡大

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

伊豆市は、(一社)伊豆市産業振興協議会を、伊豆市における地域 DMO として登録したいので(一社)伊豆市産業振興協議会とともに申請します。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	山下 芳之
担当部署名(役職)	事務局
所在地	静岡県伊豆市修善寺 8 3 8 - 1
電話番号(直通)	0 5 5 8 - 7 2 - 7 0 0 7
FAX 番号	0 5 5 8 - 7 3 - 7 0 0 3
E-mail	info@izucity-dmo.or.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	伊豆市
担当者氏名	杉本 弓弦
担当部署名 (役職)	産業部 観光商工課 主査
所在地	静岡県伊豆市小立野24-1
電話番号 (直通)	0558-72-9911
FAX 番号	0558-72-9909
E-mail	kanko@city.izu.shizuoka.jp

都道府県・市町村名	
担当者氏名	
担当部署名 (役職)	
所在地	
電話番号 (直通)	
FAX 番号	
E-mail	

都道府県・市町村名	
担当者氏名	
担当部署名 (役職)	
所在地	
電話番号 (直通)	
FAX 番号	
E-mail	

法人名:(一社)伊豆市産業振興協議会

登録区分名:地域DMO

コンセプト・伊豆市に来ると心も体もあつたまる。

・遊んで楽しい、食べておいしい、泊まってうれしい、自然、歴史、文化が薫る伊豆市へようこそ

【区域】静岡県伊豆市

(表:実施体制)

(表:KPI(実績・目標))※()内は外国人に関するもの

【設立時期】平成29年4月3日

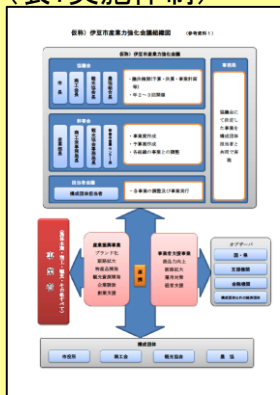
【代表者】伊豆市長 菊地 豊

【マーケティング責任者】山下 芳之

【職員数】6名

【連携する主な事業者】

(一社)伊豆市観光協会、伊豆市商工会、JA伊豆の国、伊豆市



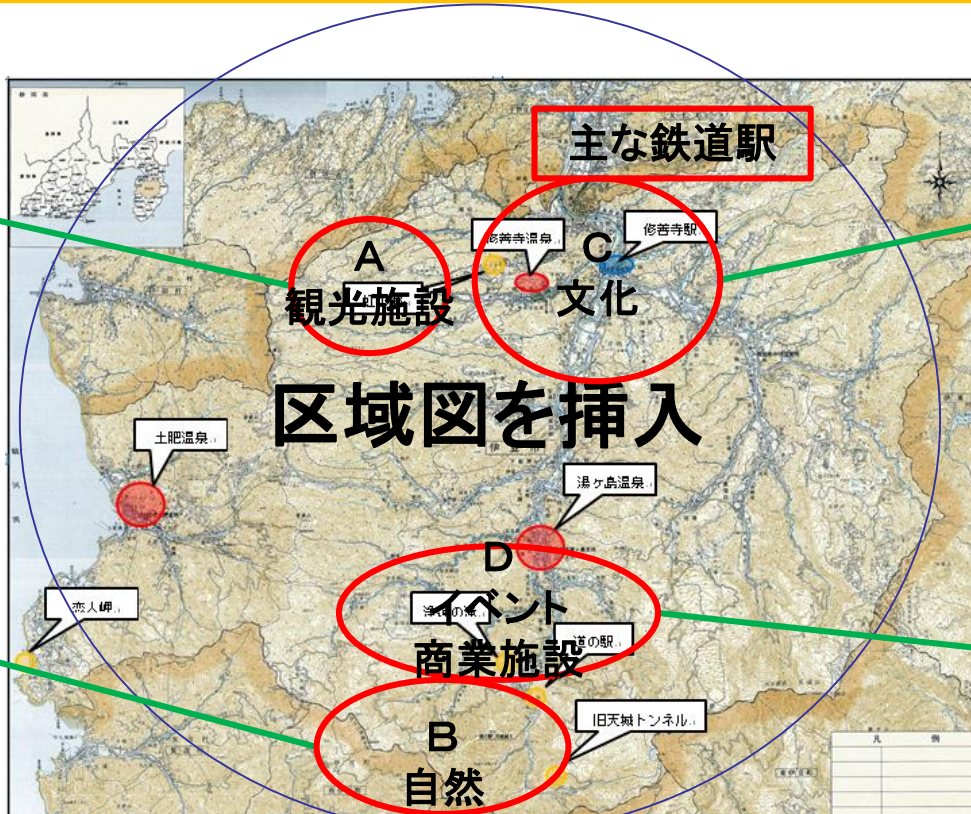
	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
旅行消費額	15,444()	17,994()	18,029()	18,065()	18,101()
延べ宿泊者数	831(56)	828(29)	844(87)	860(104)	877(121)
来訪者満足度	99.2()	97.8()	98.0()	98.0()	98.0()
リピーター率	95.8()	97.8()	98.0()	98.0()	98.0()

観光施設に関する取組を記載

観光施設同士連携して、ターゲットを決めた季節ごとの統一テーマによるイベントの開催を行うことによる市内周遊をさせるとともに、観光施設での市内で生産される特産品の販売による市内事業者の収入増を図る。事業は毎年見直しを行いPDCAサイクルをまわしていく。

自然・ジオに関する取組を記載

天城連山、滝、ジオパーク、海、農業などを組み合わせた、ニーズに合った自然を巡るツアーや自然体験の企画と共に、ガイドや市内事業者とのマネジメントを行い、参加者の安全管理、品質管理を行う。また、ワンストップ窓口を目指す。事業は毎年見直しを行いPDCAサイクルをまわしていく。



温泉街等に関する取組を記載

市内温泉場の文化、文化財、市内各地域ならではの文化を体験することができるツアーを、ニーズに合わせて企画し、市内の生産物を消費してもらう内容となるようにマネジメントを行う。あわせて、参加者の安全管理、品質管理を行う。また、ワンストップ窓口を目指す。事業は毎年見直しを行いPDCAサイクルをまわしていく。

商業に関する取組を記載

現在、構成員である各団体が行っているイベントをバックアップするとともに、マーケティングによる観光戦略、事業立案に沿った事業を連携して実施する。また、伊豆市ブランド品(アマギフト)の販売促進を図っていく。事業は毎年見直しを行いPDCAサイクルをまわしていく。